

令和5（2023）年度
自己点検・評価報告書

令和6（2024）年6月

学校法人筑波学園
アール医療福祉専門学校日本語学科

■ 令和5（2023）年度 自己点検・評価について

アール医療福祉専門学校日本語学科は、「広く国際的視野を備えた実践力に富む人材の育成」をミッションとし、教育目標を高等教育機関への進学を目標として、読む・書く・話す・聞くの四技能教育を中心に、日本語能力試験対策や日本事情の理解が深められるよう教育を行っている。

本校ではこの度、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠した「アール医療福祉専門学校日本語学科 教育評価委員会規程」を制定し、自己点検及び自己評価を行う機関として教育評価委員会を組織して、自己点検・評価を実施いたしました。

1 対象期間

令和5（2023）年4月1日～令和6（2024）年3月31日

2 実施方法

（1）実施組織：教育評価委員会

委員長	戸谷 聡子	アール医療福祉専門学校	学校長
委員	岩田 喜弘	アール医療福祉専門学校	事務局長
	中嶋 彰	アール医療福祉専門学校	事務長
	岩瀬 晴美	アール医療福祉専門学校	総合ビジネス学科長
	木下 匡善	アール医療福祉専門学校	日本語学科 主任
	宮内 三保子	アール医療福祉専門学校	日本語学科専任教員
	大川 千華	アール医療福祉専門学校	日本語学科専任教員

（2）評価基準：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」準拠

3 評価項目

- （1）教育理念・教育目標に関する事項
- （2）機関運営に関する事項
- （3）教育活動に関する事項
- （4）学修成果に関する事項
- （5）学生支援に関する事項
- （6）教育環境に関する事項
- （7）入学者の募集に関する事項
- （8）財務に関する事項
- （9）法令等の遵守に関する事項
- （10）地域貢献・社会貢献に関する事項

4 評価項目に対する評価

（1）各評価項目について、4～1の点数で評価しています。

4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

（2）各評価項目については「現状と課題」とその「改善方策」を記載しています。

自己評価

1 教育理念・目標

No	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
1	教育理念・目的・育成人材像は定められているか	4	3	2	1
2	教育目標は定められているか	4	3	2	1
3	日本語学科の特色は何か	4	3	2	1
4	教育理念・教育目標に基づく教育が行われているか	4	3	2	1

(1) 現状と課題

「広く国際的視野を備えた実践力に富む人材の育成」をミッションとし、高等教育機関への進学を目標として読む、書く、話す、聞くの四技能教育を中心に、日本語能力試験対策や日本事情の理解が深められるよう、日々教育に励んでいる。

学内の他の学科の日本人学生と文化的交流を持つことで、国際的感覚が涵養できるよう取り組んでいる。なお、2023年度は看護学科と交流会などを実施した。

(2) 今後の改善方策

看護学科だけでなく、他学科とのイベントを企画するなど、今後さらに日本人学生との交流の機会を作ることで、国際的視野を備え、実践的日本語が習得できるよう、改善を図る。

(3) 特記事項（基準となる資料、データ等）

- ・教育理念、目的（学則、学習の手引き、学生生活の手引き）
- ・人材育成像（学習の手引き、学校生活の手引き）
- ・教育目標（学習の手引き）
- ・日本語学科の特色（リーフレット）

自己評価

2 機関運営

No	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
1	理念や目的に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
2	事業計画が策定されているか	4	3	2	1
3	組織運営や意思決定システムは確立され、効果的なものになっているか	4	3	2	1
4	人事、財務管理に関する規定等は整備されているか	4	3	2	1
5	コンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1

(1) 現状と課題

本学園の建学の精神「笑顔あふれる学び舎で『真に社会に必要とされる人間性豊かな専門職』の養成」を掲げ、これに基づき中期事業計画（令和5～7年度）では「日々、笑顔あふれるキャンパスを実現する。」という基本方針をもとに、日本語学科の教育目的である「広く国際的視野を備えた実践力に富む人材の育成」のための具体的な行動計画を毎年度の事業計画として落とし込み取り組んでいる。

専門学校としてのガバナンス体制として、学校長及び各学科長、事務長から構成する学校長の最終意思確認機関として専門学校運営会議を組織し、専門学校の学生の身分及び校務に関する事項を審議している。また、人事や財務に関する事項に関しては、専門学校運営会議の上部組織である、法人運営会議（常勤理事及び法人事務局長等が構成員）に諮ることとしており、組織運営及び意思決定システムは確立している。

本学園では、人事及び財務等に関する規程を整備し、各学校の事務室に規程集として備え付けており、教職員がいつでも閲覧できるようになっている。

コンプライアンス体制としては、監事及び内部監査室における業務監査を、毎年実施しており理事会にも報告されている。また、公認会計士により毎年決算監査を受けており、コンプライアンス体制は整備されている。

なお、コンプライアンス体制等、法人ガバナンス強化のために「内部統制システム整備に関する基本方針」を策定する予定である。

(2) 今後の改善方策

令和6年度中に「内部統制システム整備に関する基本方針」を策定し令和7年度より運用を開始予定。

(3) 特記事項（基準となる資料、データ等）

- ・ 中期事業計画書（令和5～7年度）
- ・ 令和6年度 事業計画書
- ・ 規程集一覧
- ・ 令和5年度 業務監査報告

自己評価

3 教育活動

No	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
1	教育理念等に沿った教育課程が体系的に編成されているか	④	3	2	1
2	学生が到達すべき日本語能力の目標が明示されているか	④	3	2	1
3	成績評価や進級、修了の判定基準は明確になっており、適切に運用されているか	④	3	2	1
4	教員の指導力向上のための取組が行われているか	④	3	2	1
5	教育課程の改善のための取組が行われているか	4	③	2	1

(1) 現状と課題

教育課程については、読む、書く、話す、聞くの四技能教育を中心に、日本語能力試験対策や日本事情の理解だけでなく、将来の就職にも役立つビジネスマナーやパソコン演習にも力を入れた教育課程を体系的に編成している。

学生が到達すべき日本語能力の目標については、それぞれコースごとに1年コースはN3、1年6か月コースはN2と設定している。

成績評価や修了の判定基準に関しては、入学時のオリエンテーションにて明示し、説明を行っている。修了の判定については、毎年修了判定会議を行い修了の可否についてその選定を行っている。

教員の指導力向上のための取組については、定期的にアクティブラーニング研修や7つの習慣(注)についての研修を行い、教員の指導力向上に努めている。

(注) スティーブン・R・コヴィーによって書かれ1996年に出版された書籍。人格主義に基づいた成功への法則を抽出して、それを「7つの習慣」として提示している。

(2) 今後の改善方策

非漢字圏学習者は1年半でN2を取得することは厳しい現状であり、その場合は最終目標をN3に設定している。できる学習者は別途取り出し授業を行いN2を目指すよう、可能な限り習熟度に合わせた個別指導を行っている。

(3) 特記事項(基準となる資料、データ等)

- ・カリキュラム(1年コース、1年6か月コース)、学則、学習の手引き、学生生活の手引き
- ・リーフレット、入学時オリエンテーション資料
- ・学則、学習の手引き
- ・7つの習慣

自己評価

4 学修成果

No	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
1	学生の日本語能力の向上が図られているか	4	3	2	1
2	学生の日本語能力が機関が定める到達目標に達しているか	4	3	2	1
3	学生の進路を適切に把握しているか	4	3	2	1

(1) 現状と課題

学生の日本語能力向上及び到達度については、2023年度には2018年の学科設置以来、初めて日本語能力試験N2に3名合格することができた。最終的な課程修了者の日本語能力到達レベルは、N2が3名、N3が12名、N4が17名であった。（※2022年度 N3が6名、N4が6名）

なお、日本語能力試験のN2読解については、これまで課題であった読解に論理的思考力を養う教材を取り入れて授業を行った結果、読解については平均点を約8点（60点満点）伸ばすことができた。

学生の進路については、SNSを通じて情報の提供を行い、進路調査票を提出させるなど、希望進路を把握している。最終的に学生には入学許可書を学校に提出させるまで進学指導を行い、進路先を把握している。

(2) 今後の改善方策

日本語能力についての今後の改善策としては、日本語能力試験対策の授業時間を拡充する。一方で、対策時には毎日単語テストを行うなど、語彙学習の時間にも力を入れていくことで改善を図る。

(3) 特記事項（基準となる資料、データ等）

- ・ 2023年7月と12月日本語能力試験結果、リーフレット
- ・ 日本語学科1年コース(2023年4月生)、1年6か月コース(2022年度10月生)進路先

自己評価

5 学生支援

No	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
1	進学・就職指導に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか	4	3	2	1
2	学生相談に関する支援体制は整備され、有効に機能しているか	4	3	2	1
3	学生の心身の健康管理に対する支援体制があり、有効に機能しているか	4	3	2	1
4	学生寮や生活指導に関する支援体制は整備され、有効に機能しているか	4	3	2	1
5	防災や緊急時における体制が整備され、有効に機能しているか	4	3	2	1

(1) 現状と課題

本校では進学目的の学生がほとんどである。毎日のショートホームルームや定期的に面談等により、個別に進学指導を行っている。募集要項の取り寄せやから、提出書類のチェックや面接など適宜進路指導を行っている。本学園の専門課程に内部進学を希望する場合は、優先的に内部進学ができるよう、推薦入試も行なっている。

就職指導については、1名希望者がいたため、就職指導を行った。

学生相談については、各クラスに担任を配置し、学生が困った時にいつでも相談ができるような体制を取っている。また、SNSでのホットラインを設置し、学生が相談しやすい環境も整えた。ベトナム語と英語での対応可。

健康管理については、年度ごとに1回、学内で健康診断を行っている。また学生に土浦市の生活ガイドブックを配布している。医療機関を事前に案内し、緊急時の体調不良時に円滑に対応できるよう、事前に確認している。

学生寮としては民間の指定宿舎を借り上げており、希望者全員が入居できるようにしている。生活環境に慣れるよう、入居後すぐオリエンテーションを行い、ごみの分別等の指導も行っている。

防災に関しては、9月に防災訓練を実施し、防災に関する意識付けを行っている。

また、SNSなどを使用し、緊急時に学生と連絡ができるなど体制を整えている。

(2) 今後の改善方策

学生寮の衛生指導について、具体的な方法の周知と確認を徹底する必要がある。

(3) 特記事項（基準となる資料、データ等）

- ・ ショートホームルーム（学習の手引き）、推薦書（内部進学用）、個人面談記録
- ・ 健康診断実施結果報告書等
- ・ 学生寮生活ガイド、留学生オリエンテーション、学生生活の手引き、学生生活スタートブック、部屋を借りる人のためのガイドブック等
- ・ フェイスブック、メッセージ、担任の連絡先

自己評価

6 教育環境

No	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
1	施設・設備が十分かつ安全に整備され、有効に機能しているか	④	3	2	1
2	教材は適切か	④	3	2	1
3	学習効率を図るための環境整備がなされ、有効に機能しているか	4	③	2	1

(1) 現状と課題

施設・設備は十分に整備されているが、学習効率を高めるために、整理やまとめにくいプリント配布を控えて、学生に教科書や問題集で勉強できるよう、教材を購入した。また、学生貸出用図書の間接保管場所を職員室から教室にすることで、学生が借りやすい環境を整えた。

教材については、教員間で作った教材がPowerPointやWordなどのデータで共有ができるようにされている。

(2) 今後の改善方策

学習効率の向上を図るため、日本語学科のすべての教室にWifi環境を整える必要がある。

(3) 特記事項（基準となる資料、データ等）

- ・校舎の概要、設備等の概要
- ・教材費（教科書内訳）、ICT教材、日本語学科教材貸出記録簿
- ・教材の共有化、設備等の概要（パソコン、プロジェクター、スクリーン、CDラジカセ）

自己評価

7 入学者の募集

No	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
1	入学者の募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
2	入学者の募集活動において、情報は正確に伝えられているか	4	3	2	1
3	学納金は適切なものとなっているか	4	3	2	1

(1) 現状と課題

入学者の募集活動については、コロナ禍以降ZOOMを使用しての説明会や面接を行うことになった。その際に本人の日本語能力はもとより留学目的、卒業後の進路、勉強意欲、経費支弁能力の確認を行っている。

学納金については、茨城県内の社会福祉法人とタイアップし、日本で介護福祉士を目指す学生のために、奨学金プログラムを創設し運用を継続している。日本語学科入学時より奨学金の貸付を行うことが可能であり、学生の経済的及び精神的な負担を軽減することができている。

(2) 今後の改善方策

奨学金については、今後更に拡充できるよう、社会福祉法人に支援を求めていく。

(3) 特記事項（基準となる資料、データ等）

・ 学生募集広報（リーフレット、募集要項、パワーポイント資料、奨学金案内）

自己評価

8 財務

No	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
1	中長期的に学校の財産基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	③	2	1
3	財務について会計監査が適切に行われているか	④	3	2	1
4	財務情報の公開の体制はできているか	④	3	2	1

(1) 現状と課題

令和4年度に新たに専門職大学を設置したことから、専門職大学完成年度まで補助金が未交付であり、基本金組入前当年度収支差額はマイナスになっている。しかし、教育活動資金収支差額はプラスを継続しており、資金は増加している。また、積立率は201%（令和5年度）と運用資産も十分担保しており、人件費比率も51.6%と全国平均を下回っており財務基盤は安定しているといえる。

予算及び収支計画については、一部の科目で予算との乖離が見られるが、ほぼ予算の範囲内で決算を終えており有効かつ妥当と判断できる。

財務に関する会計監査は、公認会計士及び監事並びに内部監査室が毎年監査しており適切に行われている。

財務情報は、本学園のホームページ上に「決算書」「事業報告書」「監事監査報告書」「財産目録」を公開している。

(2) 今後の改善方策

予算及び収支計画については、より正確を期すために積上げ式予算及び目的別予算システムを導入するために準備・検討を進めている。

(3) 特記事項（基準となる資料、データ等）

- ・ 事業報告書
- ・ 監事監査報告書
- ・ 独立監査人の監査報告書
- ・ 本学園ホームページURL : <https://www.a-ru.ac.jp/disclosure/index.html>

自己評価

9 法令遵守

No	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
1	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	(4)	3	2	1
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	(4)	3	2	1
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	(4)	3	2	1
4	自己評価結果を公開しているか	4	(3)	2	1

(1) 現状と課題

本校は東京出入国管理局から適正校クラス I に選定されている。2018年4月の日本語学科開設以来、不法在留や資格外活動違反など、入管法違反に該当する学生は1人もいない。東京出入国管理局をはじめ関係省庁への報告も漏れなく行っている。

個人情報保護については、個人情報保護法に基づき、厳重に管理を行っている。なお、広報として外部に発信する場合には、個人情報の使用に係る承諾についての説明を行い、承諾書を提出した学生に限り、その肖像及び個人情報の使用を行っている。

自己評価の実施及び結果の公開については、適切に行っている。

(2) 今後の改善方策

自己評価の実施及び結果の公開については、今後も継続して行う。

(3) 特記事項（基準となる資料、データ等）

- ・ 法令遵守の状況（適正校通知、日本語教育機関の告示基準に基づく各種報告）
- ・ 個人情報の使用に係る承諾について

自己評価

10. 地域貢献・社会貢献

No	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
1	日本語学科の教育資源や施設を活用した地域貢献・社会貢献を行っているか	4	3	2	1
2	学生のボランティア活動への支援、公開講座等の実施などの取組を行なっているか	4	3	2	1

(1) 現状と課題

土浦キララ祭り（8月）の活動に参加した。参加学生は少なかったが、「良かった」「また参加したい」等、肯定的に受け止めていた。また、全員が「新しいことにチャレンジする力がついた」と評価していた。

(2) 今後の改善方策

参加した学生が少なかった。今後は参加人数が増えるように、早期の段階で魅力をアピールしていき、参加者を募る。

(3) 特記事項（基準となる資料、データ等）

特になし。